

平成 21 年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

事業名	知識・能力定着のための携帯電話と PC を活用した新教育方法開発		
法人名	学校法人第一平田学園		
学校名	中国デザイン専門学校		
代表者	理事長 平田 眞一	担当者 連絡先	戸田 陽子 TEL 086-225-0791
1. 事業の概要			
<p>社会、生活全体の成熟化、高度情報化により、デザインに求められる役割は変化している。単に造形的な表現だけではなく、コンセプトや経営の方向性の創造が求められるようになった。</p> <p>これまでの造形的な表現力に加え、課題発見力、提案力、マネジメント力、ビジネスマインド、など幅広い総合的な能力が求められるようになってきている。</p> <p>本事業では、課題発見力、提案力、マネジメント力、ビジネスマインドなどを総合的に身に付けるための携帯電話と PC を複合的に活用した e-learning の開発を行った。本校および協力専門学校学生を対象に、開発した e-learning を実践し、その効果を検証した。</p> <p>さらに、知識・能力の定着と総合力を評価するため、e-learning を受けた学生を対象にアイデアコンテストを実施し、「課題発見」～「解決策（アイデア）の提案」のプレゼンテーションを実社会の基準で評価し、検証を行った。</p> <p>本事業の成果は、専門学校関係者を招いた成果報告会を開催するとともに、成果物を専門学校に広く配布し、その普及に努めた。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①開発したプログラム・教材・教育手法等の概要			
<p>■e-learning コンテンツ開発</p> <p>課題発見力、提案力、マネジメント力、ビジネスマインドなどを総合的に身に付けるための e-learning コンテンツの開発をした。携帯メールへの配信を前提としたため、選択式の回答、文字数などに工夫をした。配信用の設問および回答を 200 問開発した。</p> <p>■e-learning システム開発</p> <p>開発した e-learning コンテンツを学習するための e-learning システムを開発した。開発する e-learning システムは、学習の習慣的な継続、知識・能力の定着を促進する仕組みの構築を目指した。管理のし易さと参加人数に制限を設ける必要の無いことからクラウド上にシステムを開発した。</p> <p>■表現力教材の開発</p> <p>課題発見力、提案力、マネジメント力、ビジネスマインドなどを e-learning で学習した成果を形として表現するための表現力を養成する教材を開発した。開発した教材を用い</p>			

て、研修会およびアイデアコンテストを実施し、内容を精査した。また、アイデアコンテストのパワーポイントデータおよびプレゼンテーションの様相を CD-ROM にまとめた。

②ニーズ調査等（手法・期間・効果）

■デザイン教育実態調査

- ・調査のねらい・・・専門学校でのデザイン教育の現状や課題を明らかにし、開発のための資料とした。
- ・実施および方法・・・11月から12月
書面によるアンケート調査を郵送にて実施した。
- ・対象・・・・・・・・情報系、デザイン系専門学校 537校
- ・回答・・・・・・・・38校（回収率7.1%）

知識や能力の定着について課題を抱えている学校は78.9%、新たな教育技法の必要性について65.8%が必要であると回答した。新たな教育方法として、e-learning、企業と連携による現場教育が望まれていることが分かった。

③実証講座の状況

■e-learningによる教育の実施

開発をしたe-learningを活用した教育方法により、本校および協力専門学校の学生を対象に教育を実施した。

- (1) 期 間 : 平成21年11月～22年1月
- (2) 開催地 : インターネットを利用したe-learning
- (3) 対 象 : 本校および各協力専門学校 学生 参加45名
- (5) 内 容 : 開発をしたe-learningを活用した教育方法により、課題発見力、提案力、マネジメント力、ビジネスマインドなどの知識・能力を定着させるための教育を実践した。

- ・45名に開発したコンテンツを携帯メールに毎日5問、20日間 配信し、回答するe-learningを実施した。
- ・45名中12名（33.3%）がe-learningを最後まで継続した。
- ・参加者アンケートから、問題配信および未回答問題の確認の仕組みの改善が課題となった。

■表現研修会

- (1) 日 程 : 平成21年11月28日、29日
- (2) 開催地 : 岡山
- (3) 対 象 : e-learningの教育を受けた本校学生
- (4) 参 加 : 12名
- (5) 時 間 : 8時間程度（2日）
- (6) 内 容 : 開発をした表現力教材を用いて、e-learningの教育を受けた本校学生を対象として、研修会を実施した。

④その他

■アイデアコンテスト

- (1) 日程 : 平成22年1月22日
- (2) 開催地 : 東京
- (3) 対象 : 専門学校学生
- (4) 参加 : 10アイデアのプレゼンテーション
- (5) 時間 : 6時間
- (6) 内容 : 企業経営者に対して、学生のアイデアのプレゼンテーションを行い、実社会の基準で評価を行った。e-learning および教材の教育の効果を検証した。
参加を希望する学生が多数の場合、事前に企業経営者による書類選考を行い、10アイデアについてプレゼンテーションを実施した。

- ・応募が多数寄せられたため、書類選考で10アイデアに絞り、プレゼンテーションを行った。
- ・審査を担当した企業経営者からは、考えのまとめ方、プレゼンテーションの構成が優れているとの高い評価を得た。

3. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

本事業の目的である知識・能力の定着については、残念ながら達成することができなかった。その理由としては、以下3点である。

- ① 継続を促す仕組みが不十分であった。
- ② e-learning システムの配信制限などによるコンテンツ配信の停滞があり、モチベーションの維持が困難であった。
- ③ 携帯メールへの配信により、文字情報のみのコンテンツであり、興味を喚起できなかった。

継続的な学習の実現に e-learning を活用することについて、本事業の課題をもとに今後さらに研究を推進したい。

②事業の成果

本事業は、学習の習慣的な継続を実現し、知識・能力の定着を促進する携帯電話とインターネット連携による e-learning を活用した教育方法の開発を目指した。

新たな教育方法として継続的な学習を実現する e-learning システムを開発し、本校および協力校の学生を対象に e-learning を実施した。しかしながら、本事業で目指した知識・能力の定着については、残念ながら実証するには至らなかった。

e-learning への返答が無い場合の警告や回答返信の促進をするなど、システム面から継続を促す仕組みに工夫が必要であること、また、システムの応答が遅いなど不具合が生じた場合、学生の継続するモチベーションが低下することが分かり、今後の課題となった。

③次年度以降における課題・展開

今回開発した e-learning は、今後コンテンツを増やすとともに継続的に実施し、改善、ブラッシュアップを図ることとしたい。継続的な実施は、本校学生を対象に行う予定であるが、希望があれば広く公開して実施することとする。

課題であった知識・能力の定着については今後も研究を継続して行うこととしたい。

表現力教材は、本校すべての学科で、来年度教材として使用することとした。また、アイデアコンテストのような学習成果の発表は、教育的に高い効果が期待できるところから今後も継続して実施を計画することとしたい。

④成果の普及

本事業の成果は、全国専門学校情報教育協会が主催する「専修学校フォーラム 2010」において、成果報告を実施した。

日 程：平成 22 年 2 月 24 日

会 場：中野サンプラザ

対 象：専門学校関係者

参加数：187 名

参加した専門学校教員からは、e-learning の新たな手法として可能性に期待できるとの感想をいただいた。

成果物は、全国の情報系、デザイン系専門学校 537 校に配布し、その普及に努めた。また、希望により e-learning の配信を行い、開発したシステムの検証を今後も継続して行うこととした。